

## ー羊・山羊の繁殖・飼育で現金収入を！（アトゥモロック）ー

サムラングはこのところ治安の悪化から住民たちの結束が少し崩れてしまいましたが、アトゥモロック・コミュニティ（T'mur o kを今までトゥモロックと表記してきましたが、現地の発音には「ア」が入っているようで、これからはアトゥモロックと記します）は、校舎建設、道路補修など、いずれも住民が自発的に協力、コミュニティ建設に向けて大変意欲的だとCMBは報告してきています。もう簡単に、鉱業資本や低地人の「先祖伝来の土地」奪取攻勢に屈しないだろうと楽観的すぎるとも思える評価をしています。

しかし、栄養失調の子どもの割合は推定で85%、住民の平均収入はフィリピンの平均の5分の1以下という実態がそう簡単に変わるわけではなく、教師たちは、山羊のミルク給食だけでもと考えています。

アトゥモロックにおける経済的自立支援については、私たちはすでにアグロフォレストリー（植林と樹間にマニラ麻や果樹を植える）を実施しています。以前にご紹介しましたように、南の島に木を植えて、といただいた会員のご寄付をもとにしています。

今回、それに加えて、肉用羊と山羊の飼育を住民にローン方式でという企画が、ダバオでコミュニティの組織作りと畜産を学んだメラニオ・ディアロディングから出てきました。繁殖用羊6匹と山羊10匹をまず購入し、生まれた子羊、子山羊を住民に配布。6ヶ月ほど育てて市場に売り、その売り上げの一部をCMBに返済する。繁殖用牧場では飼育数を増やして配布を受ける住民の数も少しずつ増やしていくという計画です。山羊の乳は子どもたちの栄養補給に利用することになっています。将来的には、繁殖用牧場経営もコミュニティ住民組合に移管できるように、飼育技術だけでなく事業実施・管理についても住民たちは学ぶ予定です。

「かながわ民際基金」に助成申請してみました…

何か現金収入増加事業（ライブリフード・プロジェクト）に使ってほしいと、会員から20万円ご寄付をいただいていたので、これを自己資金の一部として上記事業と簡易水道施設建設資金の助成を申請してみました。

なぜ神奈川県民の税金や寄付金で、遠いミンダナオの先住民族の自立支援をするのか？私たちの活動の意味を問うことにもなりますが、この助成申請にはそういう視点からの説明も必要でした。

フィリピン社会の中で少数派となった先住民族の問題は、神奈川県という地域社会の中で文化的少数派に属する人々の権利を守ることと通じるものがあるのでは？あるいは、地球規模の資本の原理の中で翻弄され、文化の消滅だけでなく、その生存さえ脅かされている先住民族の状況と、資源浪費型の私たちの生活とのつながりを考えることも出来ると思います。スーパーで目にする安いフィリピン産のバナナ、アスパラガス、パイナップルの一部は、かつてピラーン族の住んでいたところで大会社と契約した農民によって作られています。禿山が目立つミンダナオの木材は、その60%が日本に輸出されたといわれています。今また、地下の銅鉱が開発対象となり、ピラーンの居住地域を含む広大な範囲で新鉱山法のもと、露天掘りが許可されました。

11月末の締め切りぎりぎりに何とか申請書を提出しおえて今ほっとしながらも、かながわ民際基金がピラーン支援の意味を認めて助成をしてくれるかどうか、正直言ってその確信はありません。回答は3月末までにいただけることになっています。

（山崎）



（アトゥモロック分校の子どもたち）